

主旋律と合いの手の反復性

しかし、よくよく考えてみると、この曲における〈反復性のあるキャッチーなフレーズ〉は、**主旋律と合いの手**の2種類が存在しているということになる(歌詞©)。

なるほど、もう一度、譜面を見てみよう(譜例③)。

主旋律と合いの手の両者が、ほぼイーブンの関係で互い違いに登場している。そして両者が共に〈キャッチーな反復性〉をしっかりと担っている。これは、今までにないパターンだ。

ひるむ間もなく〈キャッチーなフレーズ〉が交互に畳み掛けてくるこの戦法……。次のように命名したい。

極意 21 | 〈主メロ&合いの手〉ツートップ戦法



ここで唐突ではあるが、前項で取り上げた「恋愛レボリューション21」に戻る。「LOVEマシン」における〈合いの手〉のパンチ力には及ばないかもしれないが、「恋愛レボリューション21」でもメロディの隙間を埋めるように〈合いの手〉が盛り込まれていたことを覚えていらっしゃるだろうか？

ページをめくり返すのも面倒だと思うので、**譜例③**にメロ譜を再掲する。

そして、ここでまたしても実験開始！

もしも「恋愛レボリューション21」の合いの手が〈日本語〉だったとしたら!?

というワケで、**歌詞⑩**の●●●●の部分に適切な言葉(例を参照)を当てはめてみてほしい。

んんん……なにやら一気に残念なムードが漂ってきた。曲のスムーズな流れが消滅、パーティ感が完全に損なわれてしまったようだ。**情報量が多く、覚えにくく、**これでは盛り上がりきれない。予想通り「LOVEマシン」と同じ現象である。

やはり〈合いの手〉には**本来の役割を徹底的に演じてもらう必然性がある**のだろう。

そこに無理やり歌詞を当てはめる必要はない。

単純な〈合いの手〉のほうが利点は多い。

あらためて、そう感じる。